第６学年１組　体育科学習指導案

公開授業Ⅰ　場所　附属小運動場　指導者　是住　直人

１　単元名　ロングベースボール（ボール運動　ベースボール型）

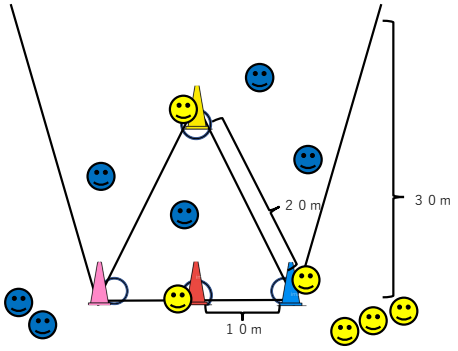
ベースボール型の一般的なルールでは，守備の難易度が高く「協働的なプレイで相手の進塁を防ぐ」という面白さに触れることが難しい。そのため，ルールを簡易化する実践もあるが，判断する機会を減らすだけでは，競争をたのしめるゲームにはなり得ていないことも多い。

本学級の子どもたちに目を向けてみると，昨年度のベースボール型の学習を通して，自己の力やチームの特徴に応じて運動への関わり方を広げようとする姿があった。このような子どもたちに，状況に応じたよりよい守備位置や役割行動などのチームでの協働的なプレイによって，相手の進塁を阻止するという面白さや難しさに触れながらたのしみ方をより広げていってほしい。

そこで本実践では，「ロングベースボール」に取り組む。このゲームの特徴は，２塁までの塁間を広くしたことにある。塁間を広くすることによって，走者と守備側の競争がより生まれやすくなる。また，残塁走者を置いた状態でゲームを開始することによって，常に残塁走者の位置を意識しながら攻防することとなる。特に，攻撃側は残塁走者の位置に応じたよりよい攻撃方法について工夫し，守備側は，残塁や打者の特徴に応じた，守備の位置や役割行動などのボールを持っていない人の動きを試行錯誤していくことができる。このような学びを通して，チームでの協働的なプレイや１つのことをチームのみんなで達成することの喜びや面白さに触れることができ，運動に親しむことができる子どもの姿が生まれると考える。

２　単元について

⑴　本単元は，「ロングベースボール」（ボール運動ベースボール型）に親しむ中で，攻撃側は打撃でいかに走者を進めることができるのかを試行錯誤したり，守備側は残塁や打者の特徴に応じて，守備の位置や役割を試行錯誤したりしながら，協働的に運動するたのしさを味わうことをねらいとしている。このゲームのルールは，下図の通りである。２塁までの塁間を長くすることによって，ベースボール型の面白さであるベースまでの競争がより生まれると考える。まず，攻撃側は，打球方向を工夫する必要が出てくる。例えば，残塁走者が１塁にいるときに，２塁付近に打球を飛ばすと，走者を進めることができない可能性が高くなる。そのため，打者は残塁走者の位置の応じた，よりよい打撃をすることが求められる。次に，守備側は，塁間が広いため，進塁を防ぎやすくなる。守備側に進塁を防ぐ機会が増えるため，進塁を防ぎたいという思いが生まれ，チームでの協働的なプレイに関心が向いていく。



⑵　昨年度ベースボール型のゲームにおいて，走者の位置を視点として，よりよい守備について学習をしてきた。そこで，本単元では，教材の工夫を行い，攻撃側と守備側が競争しやすい状況をつくり出すことで，残塁走者の位置，守備の隊形や動きなどにより着目できるようにし，ベースボールのたのしみ方を広げ，今後のボール運動にもつなげていく。

- １チーム６人　・道具はカラーバットとハンドボールを使用する。

【攻撃側】

- 図のように走者が２人いる状態でゲームを始める。
- バッターはティーにボールを置いた状態で打撃する。
- 打撃後は打者走者となり，進塁していく。
- 本塁に帰ってきたら得点となる。
- フライを直接キャッチしても，進塁してよい。
- ３人打撃を行ったら攻守交代する。

【守備側】

- 守備は４人で行い，ローテーションするようにする。
- 相手の走者より先回りして，ボールを運ぶことができれば進塁を防げる。（ボールは投げ入れても，運び入れても構わない）
- 進塁している人にタッチしたらアウト。
- 外野に飛んだ場合は，ホームベースに走り込むことはできない。

⑶　単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数３６人)

①　すべての子どもが止まっているボールを打つことができる。２０m程度飛ばすことができる子どもが半数以上いる。一方で打球に力強さがない子どもも５名ほどいる。

②　１５m程度の距離であればハンドボールをねらったところに投げることができる子どもが多い。ボールを捕ることに苦手意識を感じている子どもが４名ほどいる。

⑷　指導にあたっての留意点は次の通りである。

①　単元の導入時には，十分にゲームに取り組む時間を確保し，やってみる中で変更したいルールなどを聞き取りながら，柔軟に調整していく。また，このゲームの難しそうなところや面白そうなところを言語化し共有することで，「残塁の状況で攻撃側も守備側も作戦が変わる」というこの単元における中心的な課題に向かうことができるようにする。

②　ゲームをする中で，子どもたちから表出された「得点を取るにはどこをねらうとよいのか」「守りのときにどこに動いたらよいのかわからない」などの問いや困り事を見取り，全体で共有しながら，課題設定を行っていく。困り事は様々に考えられるため，課題として取り上げる際には，状況（場面）を絞り，状況に応じた最適解をそれぞれに試行錯誤することができるようにする。

③　本時では，体育日記の「守備の時に役割分担ができていなくて失点してしまった」という困り事を共有し，最初の守備の隊形からのどのように動くのかという視点で課題を立ち上げていく。試しの場では，実際に動きを試技しながら，チームごとに納得できる作戦を追求できる場を設定する。また，解決策を共有する際は，打球が飛んだ場所や守備位置を明確にしながら，その作戦のよさを問い，状況に合わせたよりよい判断について理解を深めることができるようにしていく。

３　単元の目標

⑴　狙ったところにボールを打ったり，よりよい守備位置をとったりすることができる。

⑵　よりよい打球方向や最適な守備の仕方を見つけ，考えたことを友達に伝えることができる。

⑶　運動に積極的に取り組み，ルールを守って助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたりしてゲームを楽しもうとしている。

４　指導計画（７時間取り扱い）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
１　学習の見通しをもち，今の自分たちに合うように場やルールを工夫する。	○　身に付きそうな力や課題となりそうなところを言語化させることで，子どもたちが見通しをもつことができるようにする。 ○　困り事を全体で共有しながら，残塁の状況が複数あることを整理し，守備側の難しさを確認しながら学習の方向付けを行う。	２
２　よりよい攻撃の仕方，守備の隊形や動きについて，追求していく。	○　体育日記の記述や動画から困り事を見取り，場面の状況を提示したり，子どもに話させたりしながら，課題を設定する。 ○　攻撃に関する困り事については，技能面の指導をしながら，体の使い方に焦点を当てて学習を深めていく。守備側の困り事については，守備位置や走者の位置，ボールが飛んだ場所を視点としながら，よりよい守備の仕方を追求できるようにする。 ○　体育日記に解決したことや次時に明らかにしたいことなどを記述させることで，子どもたちが学びを調整しながら，自分のなりたい姿に向かって学習できるようにする。	５ 本時 ３／５

５　本時の学習

⑴　目標

打球が飛んだ後の守備の動き方や役割を考え，その動きを試す活動を通して，進塁を防ぐためのチームで連携した動きを見つけることができる。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
５	１　準備運動をして，それぞれ練習する。	○　ねらったところに打つ練習をしたいね。 ○　守備の時の動きを確認したいから，守備位置や動き方の確認をしながら練習をしよう。
５	２　本時の課題を把握し，これまで試したことや試してみたい動きを話し合う。	○　ホームに２人いて，役割が決まっていなかった。 ○　最初の守備位置から動かないこともある・・・ ○　１人はボールを取る人だから，それ以外の３人はどこに動くと一番いいのかな？ ○　１人は必ずホームに行ったがいいと思う！ ○　全員でホームに行く必要はないから，１人は３塁でボールをもらったらどうかな？ ○　遠くにボールが飛んだときはどうするの？ ○　自分たちの守備の役割を整理しながらゲームでためしてみたい。
１５	３　よりよい動き方を試す。 ⑴　ゲームをしながら試す。 ⑵　全体で共有する。	○　内野のところにボールが転がったらホームに走っていった方がよくない？ ○　それがいいと思う。近いから走った方が早い。けど，外野に飛んだときは投げた方がいいかな？ ○　遠くまで飛んだときは，１人はホームで１人は３塁がよくない？ ○　１人余るから，ホームの後ろでカバーする役割とかはどうかな？ ○　何もしない人がいないようにしました。ホームと３塁とカバーの役割で動きを整理しました。
１５	４　試合をする。	○　実際の試合となるといろんな状況があるから，試合をしながら動き方を考えてみようよ。 ○　３塁に走者がいるときは，内野に転がったらホームかな？でも，間に合わない気もするな。 ○　ランナーがたくさん溜まってしまうと相手に得点されるから，２塁でアウトにして，ランナーを減らす方法もありそうだね。
５	５　学習の振り返りをする。	○　ボールが飛んでこないときの役割が見つかりました。ボールが飛んだところを見て動けたので，チームで協力してプレイすることができました。 ○　残塁の場所が変わるとやっぱり難しくなるから，次は他の状況を考えてみたいです。

子どもたちはこれまで，チームの特徴に合った守備位置を試行錯誤してきています。本時では，守備の役割が決まっていないで失点したという困り事を取り上げ，役割をボールを持たないときの動きを視点としながら考え，最初の守備位置からどこに動くとよいのかを追求していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

○　これまでの学習で見つけたり紹介したりしてきた練習方法から，必要な練習をチームごとに選ばせて活動をさせることで，必要感をもって技能を高めることができるようにする。

【教材・教具】
○　学びの足跡
○　タブレット端末
○　連続写真
○　コート図

○　体育日記の「守備の時に枠割分担ができていないで失点してしまった」という困り事を共有した上で，チーム内で役割を意識して動いていたのか想起させる。必要に応じてコート図などを見せ，守備者の位置や動きを確認しながら状況を整理しながら課題を立ち上げていく。

最初に守っている場所から，私はどこに動くとよいのだろう。

○　子どもたちから「打球が飛んだ場所によって，役割が変わる」という発言が予想される。その際は，「外野に飛んだ時」と「内野に飛んだ時」などの場合分けをしながら視点を整理し「打球によってどのように守備の役割が変わるのか」ということに焦点化し，試す動きを明確にするようにする。また，最初の守備位置からの動きということも意識できるようにする。

○　作戦シートやホワイトボードを準備しておき，守備隊形や守備者の動きを言葉や矢印などで書かせ，打球の位置と守備者の動きを明確にし，思考を可視化するようにする。

○　試しの場の子どもたちの様子を見取り，ボールを持たないときに役割を分担して動いているチームを全体で取り上げるようにする。その際，モデリングや作戦シートによって動きの可視化を促し，動きのよさを全体に問うことで，守備者の動き，打球の位置などの空間的・関係的な見方を働かせながら，状況に合わせた作戦を共有できるようにしていく。

○　動きとその意図を関連付けながら共有することによって，自分たちの作戦のよさを再確認したり，他のチームの作戦のよさに気付いたりすることができるようにする。

○　子どもたちの状況を見取り，試合を行う前に，チームごとに自分たちの攻撃面の作戦や守備での動きを整理する時間を設定することで，試しの場や全体での共有で明らかになったことを作戦に反映し，ゲームに生かせるようにする。

○　ゲーム中の様子を見取り，意図をもって動こうとしている姿を価値付けるようにする。そうすることで，チーム内で連携して守備をするよさを自覚させ，意図をもって１つのプレイを共に実現しようとする意欲を高めていく。また，促進していないチームには，どのように動きたかったのかを問うことで，それぞれの動きの意図を表出させ，チーム内の対話を生み出していく。さらに，必要に応じて教師が守備隊形を整理したり，連携して守備をしたりする動きについてアドバイスを行うようにする。

○　本時で学んだことや考えの変化などを共有し，価値付けることで，自分やチームの変容や学習の深まりを自覚できるようにする。また，本時でうまくいかなかったことなども振り返りの前に共有し，次時への学びの意欲を喚起するようにする。

【評価】
打球が飛んだ後の守備の動きや役割について考え，進塁を防ぐための最適な作戦を見つけることができる。（観察・記述）